

# 第39回日本口腔インプラント学会 学術大会に参加して 「インプラント治療における医療安全・安心」

ワールドサテライトセミナー・シンポジウム・教育セミナー・研究セミナー

日時：平成21年9月25日(金)～27日(日)

場所：大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

田中 芳人 (大阪府)



平成21年9月25日(金)から27日(日)に大阪国際会議場(グランキューブ大阪)において第39回(社)日本口腔インプラント学会 学術大会(第29回(社)日本口腔インプラント学会 中国・四国支部総会・学術大会併催)が開催されました。

本学会の正会員数が1万人を超える学会になり、参加者数が多数の予想のため大阪で行われました。今回のメインテーマは「インプラント治療における医療安全・安心」を掲げ、ワールドサテライトセミナー、シンポジウム、教育セミナー、研究セミナー、また歯科衛生士や歯科技工士のセッションなど盛りだくさんの内容になっていました。

1日目は、朝9時よりケースプレゼンテーション試験が行われ、ワールドサテライトセミナーでは Guided Surgery を使用した Immediate Loading の講演、その後の専門医教育講座では、「インプラント周囲の診断・治療における細菌学的アプローチ」

の講演が行われました。AP-PCRを用いて細菌の遺伝子パターンを比較したところ菌周ポケットからの細菌がインプラント周囲ポケットに伝播していることが証明されたことや、抗菌療法の流れなどの講義がありました。

会場は専門医教育講座とあってほぼ満席になる状態でした。

2日目からは、会場は人であふれかえり大変混雑しておりました。

いつも思う事ですが、多数の会場での口演が並列で行われるため、聞きたい口演を限定しておかなければいけないことです。同時間の興味のある口演があった場合どちらを選択するか迷います。

また必要で人気のある会場では会場内での立ち見が出ており会場すら入ることが難しく、入室できた頃には聞きたかった演題は終わっておりました。やはり偶発症・除去のセッションはみんな興味があるところです。





また、教育セミナー臨床系2「サイナスリフトを再考する ―安全な術式とその予後―」は上顎洞粘膜の穿孔と上顎洞の隔壁の処理について、トラップドアの扱い方や骨補填材の種類にはあまり結果の差が認められないなど活発な討論があり、会場内も多数参加され関心の高さが伺われました。また、以前PRPを使用していた演者も最近は使用していないなど興味のある内容でした。

懇親会は大阪ミナミの湖月で行われ、ギリシャか

ら来日された女性ドクター（Dr. Trimou）を交え、例年どおり盛大な懇親会となりなした。その後二次会は近くのカラオケでしたが、皆さん遠慮がちで二、三曲しか歌われないため盛り上がりず、すぐにミナミのネオン街へ場所を変更し三次会は盛り上がったようでした。幹事の先生方、大変お疲れ様でした。

来年は札幌で行われる予定であります。ぜひ沢山の先生方の参加をお願いいたします。

